

香美町 ならではの 教育の挑戦

●問い合わせ先 町教育委員会教育総務課

保・幼・小・中・高が連携し合う教育

本町では、「地域を紹介し、ふるさとを語れる子ども」や「自己表現力の豊かな子ども」など、中学校区単位で目指すべき子どもの姿や、人間像を共有し、小・中学校それぞれの独自性を維持しながら、学習面や生活面で連携し合う教育を進めています。

また、保育所、認定こども園、幼稚園でも、園児の資質や能力が小学校教育へ引き継がれるよう、幼稚園の教員などが小学校の教員と意見交換をし「就学するまでに育てほしい姿」の共有に努めるなど、発達段階に応じて、保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校が連携し合う「一貫化教育」に取り組んでいます。

今回は本町が行っている取組の例を紹介します。

「乗り入れ授業」の実施

「乗り入れ授業」とは、中学校の教員が小学校で指導を行う、または小学校の教員が中学校で指導を行うものです。小代小学校の5・6年生では、総合的な学習の時間を使い、国際理解教育の一環として、小代中学校の教員を招いた英語の授業を月2回程度行っています。

主に学級担任の授業を受けることが多い小学生は、中学校の教員の授業を、新鮮な気持ちで受けることができ、内容に興味を持つことができます。また、後に中学校に進学し、環境が変わることに対する子どもたちの不安感を和らげることができます。さらに、英語を教えることがあまりなかった小学校の教員が中学校の教員と協力して授業を行うことで、指導力が向上します。

今後子どもたちの学力が向上するよう、小・中学校の教員が、連携を密に行い、一貫化教育の取組を継続します。



▲小代小学校での乗り入れ授業の様子

連携した「あいさつ運動」

本町では「3つの町民運動」の一環として、保・幼・小・中・高が連携した「あいさつ運動」に取り組んでいます。

特に毎月第1月曜日の3つの町民運動の日には中学生や高校生が、小学校・幼稚園の校門前などに立ち、さわやかなあいさつで子どもたちを迎えています。

例えば、村岡小学校では、村岡高校の生徒たちが、登校してくる園児・児童に啓発パネルを使ったあいさつ運動を推進しています。

気持ちの良いあいさつは、温かい人間関係をつくることができます。年齢の近い高校生に影響を受けながら、子どもたちは、素敵なあいさつを校区に広げています。



▲村岡小学校であいさつ運動を行う村岡高校の生徒